

平成 26 年度

学習院大学図書館所蔵

貴重資料展

萬國國旗圖

改正日本輿地路程全圖



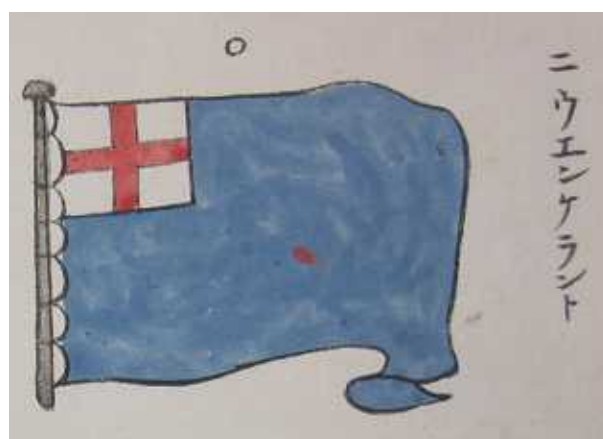
萬國國旗圖

江戸時代の鎖国（おおむね 1854 年の日米和親条約締結まで）以降、中国やオランダ以外の諸外国との繋がりが復活する前から、国旗の研究は随分と行なわれていたようである。現在わかっているだけでも、貴志孫太夫の『万国国旗図及檣号図』、鱸奉卿の『萬國旗章圖譜』、宇田川榕菴の『万国旗章譜』、著者不明の『万国旗印』、など。当時の国内における「外の世界」への関心の高さがうかがわれる。

当館所蔵本は、来歴は不明であるが、明治期に書写されたものであるとされる。すべてのページに旗の図と名称が描かれているだけで、詳しい説明等はまったくないが、図柄だけでもなかなか興味深い。

当時使用されていたカタカナで書かれていること、また、現在の国名(地域名)とは一致しないものが多いため、いったい何の旗なのか判然としないものもありつつ、たとえば白地に赤十字(イングランド)の旗など、ユニオンジャックの原型として現在でも馴染み深いものも見受けられ、読み解いていくと非常に面白いだろう。

現在の国旗に関する資料を併せて置いたので、それを参考にしながら、展示資料を見て欲しい。



ニューイングランド？だろうか。

改正日本輿地路程全圖

オランダの医師、動物学者であるシーボルトが国外に日本地図を持ち出そうとして国外追放となった「シーボルト事件」では、シーボルトが持ち出そうとした地図は、伊能忠敬の『大日本沿海輿地全図』（伊能図）の縮図であるとされている。当館では、伊能図の中図（全国を8分割した縮尺）を所蔵しており、インターネットによりそのデジタル画像を公開をしている。

同時代頃の地図資料として、今回、標題の資料を展示している。長久保赤水が『日本輿地路程全図』（赤水図）を最初に作成したのが1774年であり、『改正日本輿地路程全図』は1779年に作られたものである。『伊能図』は、その正確さから幕府に厳重に管理されていたこともあり、赤水図が世間一般には広く使われたそうである。当館所蔵資料は、弘化三年（1847年）四月の序文が付してある写本である。

『日本輿地路程全図』は、比較的彩色豊かに描かれており、また、当時未開拓であった北海道が描かれていないなど、さまざまな特徴がある。当館以外にも、神戸大学附属図書館の住田文庫、東洋大学狩野文庫、また、大英博物館などにも所蔵があり、当時の日本の状況がわかる貴重な資料であるといえよう。

平成26年8月1日

学習院大学図書館所蔵貴重資料展
大学図書館情報サービス課 佐藤飛鳥